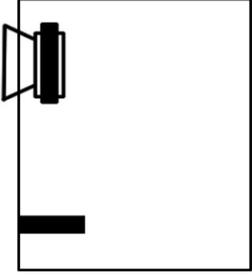
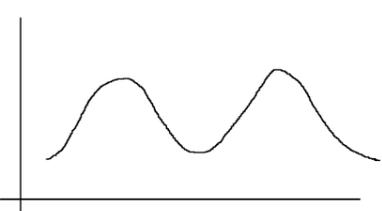
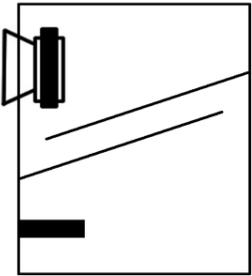
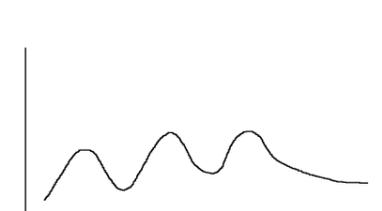
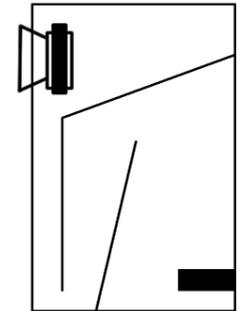
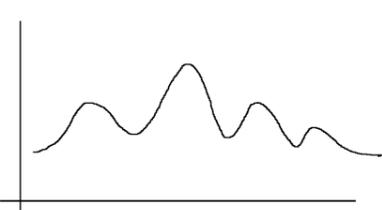
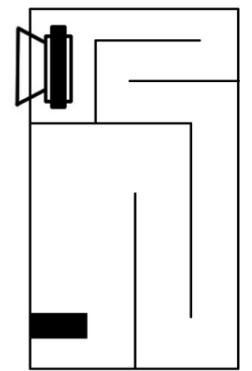
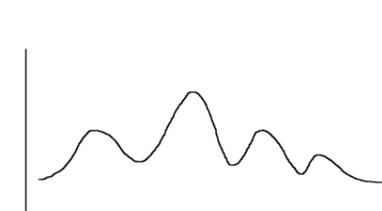


## 音工房Zフルレンジ1発エンクロージャー新分類（2022年3月～）

| 名称  | 箱の構造イラスト  | インピーダンス   | 特徴・長所・短所  |
|---|---|---|---|
| Z600/Z700<br>バスレフ<br>(BS)                             |    | <br>山2つ、谷1つ       | 市販品の最も一般的な形式。長所としてはフラットで時間特性も優れている点。短所としてはfd以下のローエンドがでにくい、詰まった感じの音になりやすい、ダクトからの高域漏れが多いなど。箱設計の計算式はシンプルでほぼシミュレーション通りの共振周波数を得ることができる。  |
| Z601/Z701<br>ダブル<br>バスレフ<br>(DBS)                     |   | <br>山3つ、谷2つ      | バスレフの欠点であるローエンドを引き伸ばすことができる。代わりに低域から中域にかけてディップができる。音は開放的、高域の漏れも少ないが中域のディップを目立たないようにする工夫が必要。箱を大きくしないとローエンドの伸びは限定的。箱設計の計算式はバスレフより複雑だが、近似値を得るシミュレーションは可能。  |
| Z602/Z702<br>ショート<br>バックロード<br>ホーンバスレフ<br>(S-BHBS)    |  | <br>山3つ以上、谷2つ以上 | 総音道が短い（概ね1.5m以下）バックロードホーン形式（BH）&出口をダクト形状（BS）を採用。ダブルバスレフより広い帯域をもちあげられるので、ディップはマイルドになる。低域位相特性は上記2つのエンクロージャーに劣るのが欠点。ホーンカーブとダクト調整で従来型のバックロードの欠点である中域パイプ音はほぼ克服できる。箱の設計は経験とカンをベースに、聴感確認を行いながらテスト&エラーの繰り返しが必要。 |
| Z603/Z703<br>ロング<br>バックロー<br>ドホーンバ<br>スレフ<br>(L-BHBS) |  | <br>山3つ以上、谷2つ以上 | 総音道が長い（概ね1.5m以上）バックロードホーン形式（BH）&出口をダクト形状（BS）を採用。ローエンドから中域帯域まで広範囲に持ち上げる事が可能なため、FOSTEXハイ上がりオーバーダンピングユニットに向く。低域の位相特性が最大の欠点となる。箱の設計は経験とカンをベースに、聴感確認を行いながらテスト&エラーの繰り返しが必要。                                   |

■2022年3月から音工房Zで製造販売する、フルレンジ1発のエンクロージャーは上記のように分類いたします。

■Z600シリーズはAmazon販売で木材はMDF、Z700シリーズは音工房Z販売で木材はフィンランドバーチベニヤになります。